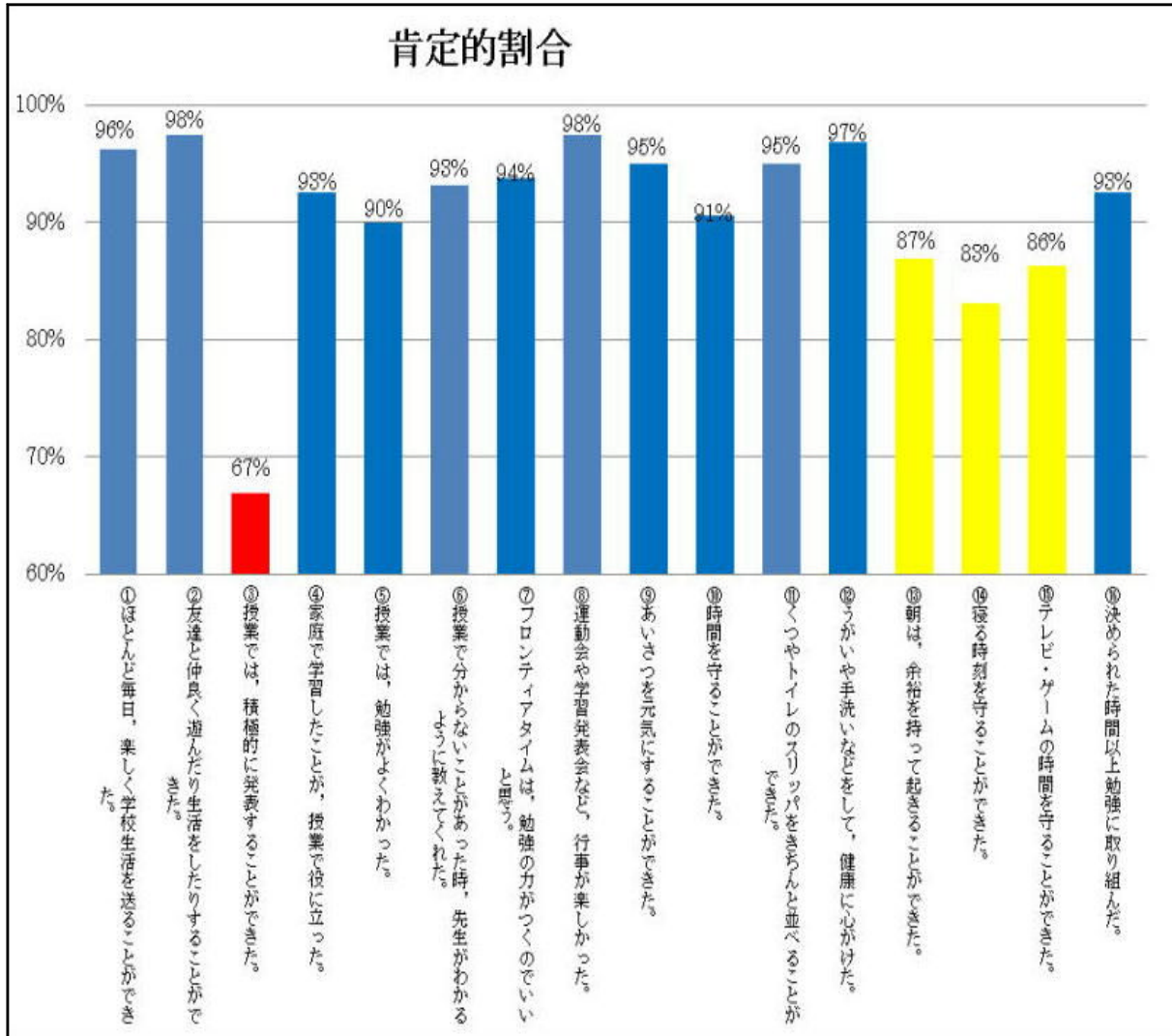


平成23年度 児童アンケート考察

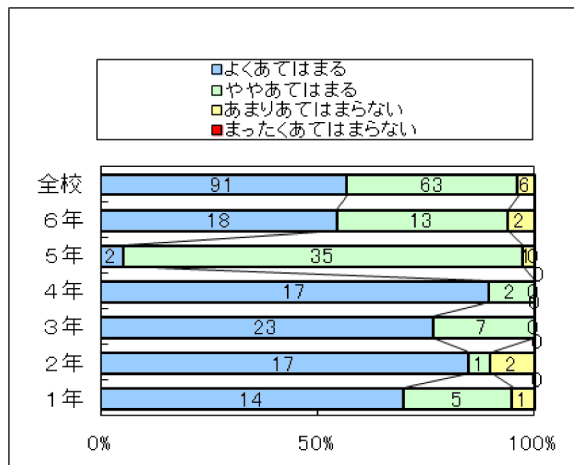
【実施時期：12月 回答数：160】

1 肯定的割合



2 各項目ごとの割合

①ほとんど毎日、楽しく学校生活を送ることができた。

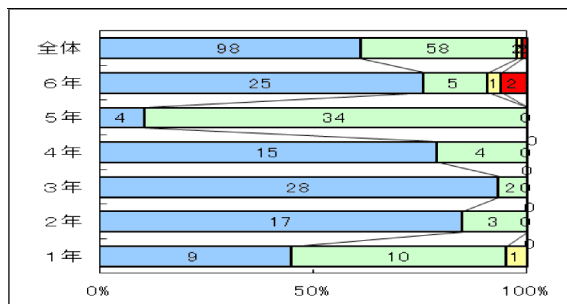


【考察】

楽しく学校生活を送ることができたと感じている児童が、全校で約96.3%（昨年度92.5%）であり、概ね良好であるといえる。一方、約3.7%（6名）の児童が「あまりあてはまらない」と答えている。

「学校が楽しい」ということが学習・生活の最も基本となるものなので、100%の児童が楽しいという学校となるよう、手立てを図る必要がある。具体的には、個別面談の実施や追跡アンケートを実施することにより原因を探り、支援等を行う必要があるだろう。

②友達と仲良く遊んだり生活をしたりすることができた。

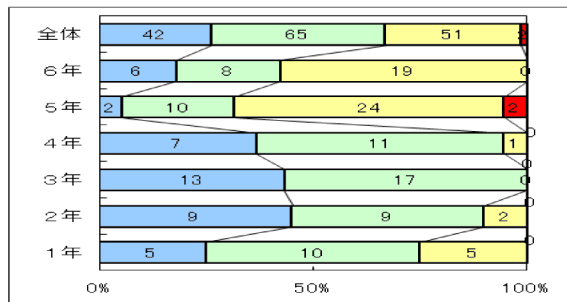


【考察】

約97.5% (昨年度94.1%) の児童が、友達と仲良く遊んだり生活をしたりすることができたと回答している。一方、「あまりあてはまらない」児童が2名、「まったくあてはまらない」児童が2名いる。

上記①同様、個別面談の実施や追跡アンケートを実施することにより原因を探り、学級作りの見直しと個別支援等を行う必要があるだろう。

③授業では、積極的に発表することができた。

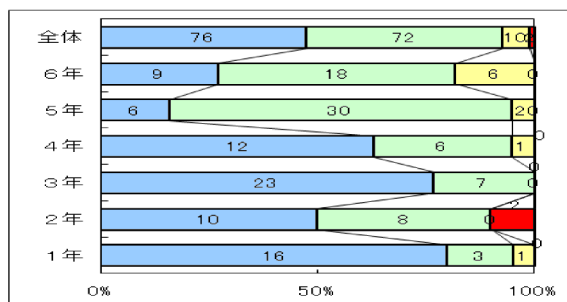


【考察】

達成率が約66.9% (昨年度63.6%) と全項目中一番低い。

表現朝会 (音楽や音読など) 等、教育課程の内容も考慮しなければならないだろう。しかし、やはり1時間1時間の授業が勝負である。来年度からの統一話形に加え、児童が主体的・意欲的に取り組む授業、自分の考えを述べる喜びを感じる手立て等、授業改善を図る必要がある。

④家で学習したことが、授業で役に立った。

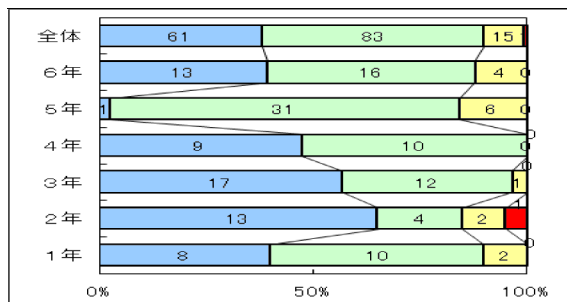


【考察】

家で学習したことが授業で役に立ったと感じている児童が約92.5% (昨年度81.8%) である。

「子どもの学びの習慣化」のリーフレットを配布する等の手立てを取ってきているが、今後は家庭学習の質の向上、及び授業との連動を図る必要がある。

⑤授業では、勉強がよくわかった。

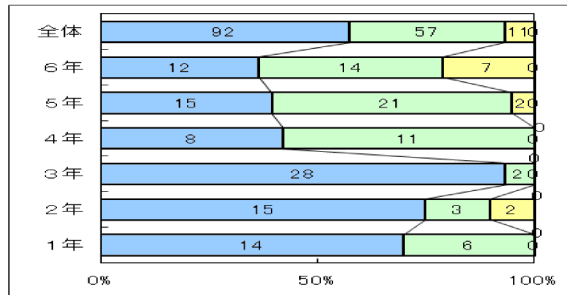


【考察】

約90.0% (昨年度85.6%) の児童が、勉強がわかったと回答している。実態と意識には差があると考えられるが、約10.0% (16名) の児童がわからなかったという意識を持っているという結果である。

学校は、勉強を教える場である。FTや家庭学習との連動を図りながら、日々の授業で、一人一人にわからせる手立てを取る必要がある。また、児童に達成感・満足感を味わわせることができる授業にする必要がある。

⑥授業でわからないことがあった時、先生がわかるように教えてくれた。

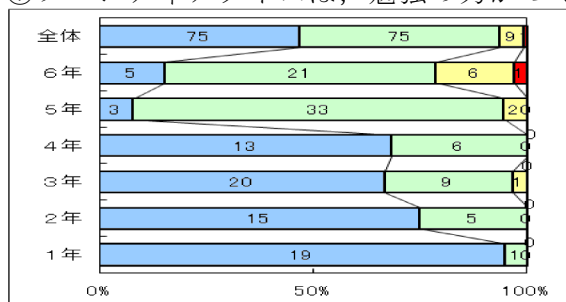


【考察】

約93.1% (昨年度90.9%) の児童が、先生がわかるように教えてくれたと回答している。逆に見ると、約6.9% (11名) が不満を持っていることとなる。

児童一人一人をしっかりと見取り (チェックリスト等を活用しての形成的評価)、個に応じた支援・指導 (フィードバックしての再指導等) が必要である。また、授業時間だけでたりなかった場合、フロンティアタイムや家庭学習に個別の課題を出す等の手立ても必要である。

⑦フロンティアタイムは、勉強の力がつくのでいいと思う。

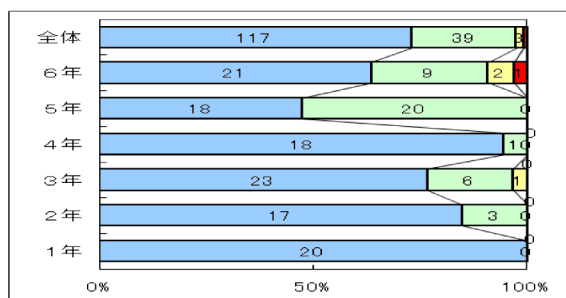


【考察】

約93.7%（昨年度81.8%）の児童が、肯定的であった。

さらに内容を充実させるとともに、設定した意図を見ることが十分に体感できる時間とする必要がある。

⑧運動会や学習発表会など、行事が楽しかった。

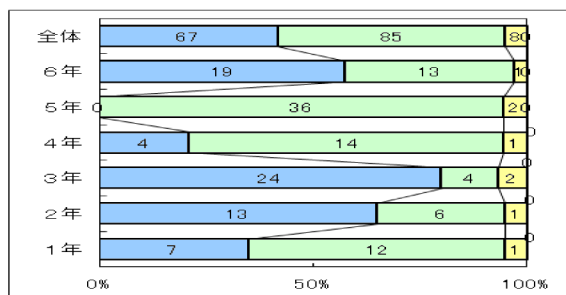


【考察】

運動会や学習発表会等の行事が楽しかったと回答した児童が約97.5%（昨年度90.4%）であり、良好であったと考える。

今後は、内容を吟味し、深化を図っていく必要がある。

⑨あいさつを元気にすることができた。

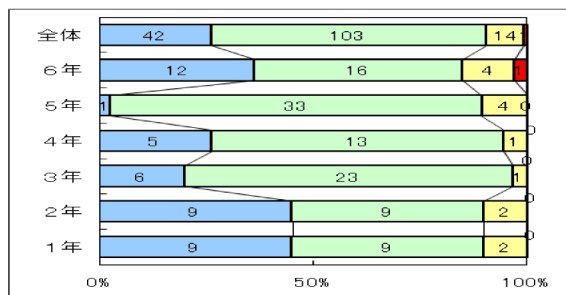


【考察】

約95.0%（昨年度82.4%）の児童が、あいさつを元気にすることができたと回答しており、意識の上では大幅な改善がみられる。

本校の生活指導の重点目標でもあるので、全職員が指導力を発揮・向上させ、徹底させることが必要である。また、量的なものの向上を図るとともに、はきはきと言ったり心を込めたりする等、質的な向上も図る必要がある。

⑩時間を守ることができた。



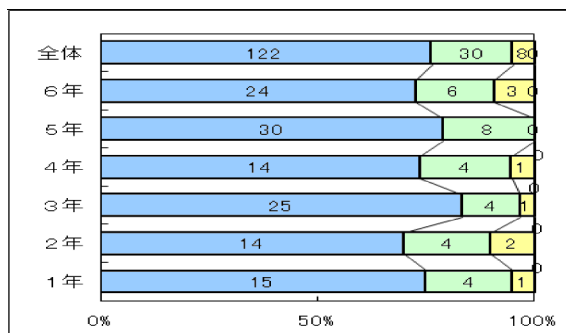
【考察】

約90.6%（昨年度79.1%）の児童が、時間を守ることができたと回答している。

何が守れなかったかを問うていないので判断できないが、集団登校の集合時間や授業の準備、給食を時間内で食べる等が考えられる。

今後は、時計を見て自分で判断して行動する力を身に付けさせる必要がある。

⑪靴やトイレのスリッパをきちんと並べることができた。

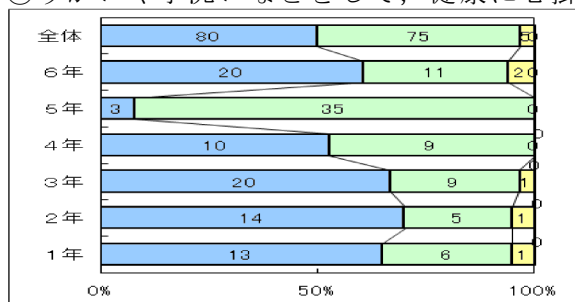


【考察】

約95.0%（昨年度92.0%）の児童が、きちんと並べることができたと回答しており、さらに「よくあてはまる」が多いのが特徴であり、青方小学校の良き伝統となっていて、嬉しい限りである。

今後は、自分が使った後はもちろんのこと、人が見ていないところでも、また、進んでという段階まで達するように指導する必要がある。

⑫うがいや手洗いなどをして、健康に心掛けた。

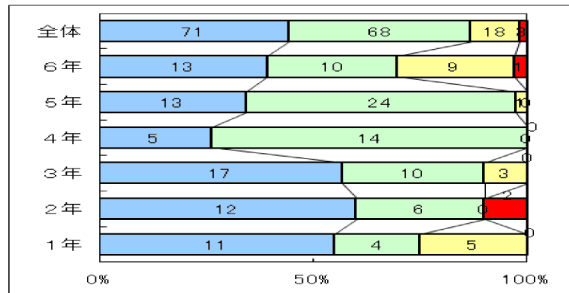


【考察】

約96.9% (昨年度86.1%)の児童が、健康に心掛けたと回答しており、概ね良好である。

今後も、健康作り・病気の予防という観点からも、継続して指導する必要がある。

⑬朝は、余裕を持って起きることができた。

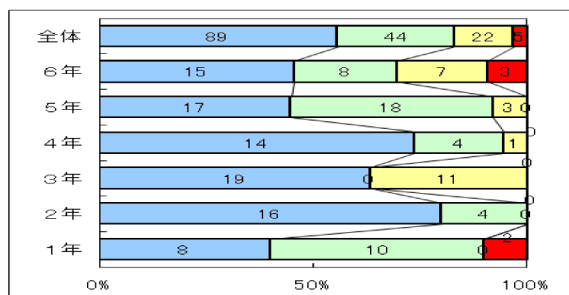


【考察】

約86.9% (昨年度79.1%)の児童が、朝は余裕を持って起きることができたという回答している。

達成率が低い項目であるので、PTAの「早寝・早起き・朝ごはん」とも連携をし、下記⑭⑮と合わせて、指導をする必要がある。

⑭寝る時刻（1・2年生は9時，3・4年生は9時30分，5・6年生は10時）を守ることができた。

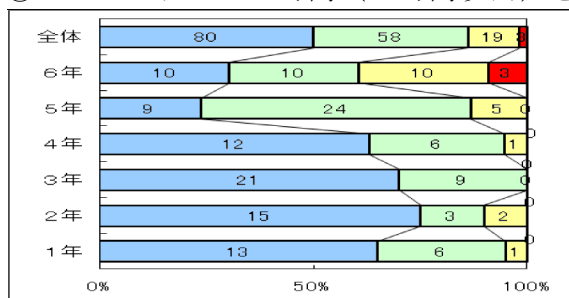


【考察】

達成率が約83.1% (昨年度77.0%)という低い項目である。

「子どもの学びの習慣化」リーフレットを配布したり、毎月、アンケートを実施したりしているが、十分ではない。⑬⑮と合わせて、個に応じた支援を行ったり、学校・学級便り等で保護者を啓発し、協力して取り組む必要がある。

⑮テレビ・ゲームの時間（2時間以内）を守ることができた。

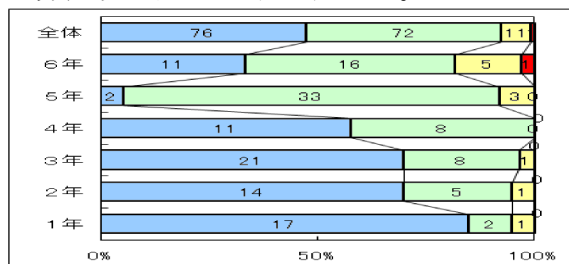


【考察】

達成率が約86.3% (昨年度74.8%)という低い項目である。

昨年度に比べて改善しているものの、学年が上がるにつれてテレビを見たりゲームをしたりする時間が長いという結果がでている。⑬⑭と合わせて、家庭と連携して取り組む必要がある。

⑯家で、決められた時間（1・2年生は30分，3・4年生は60分，5・6年生は90分）以上勉強に取り組んだ。



【考察】

達成率が約92.5% (昨年度85.6%)である。

上記⑮と似ており、家庭での過ごし方が見て取れるので、⑬⑭とも関連させ、家庭生活について個別指導が必要である。